

日本キリスト教史研究の現在

塩野 和夫

西南学院が『西南学院七十年史 上・下巻』¹を刊行して、30年近い月日が流れた。学院は創立百周年記念事業の一環として、『西南学院百年史』編纂事業に取り組んでいる。ところで、『西南学院百年史』の内容は単純に『西南学院七十年史』の延長上に構想することはできない。この30年間に日本キリスト教史研究の分野において、着実な研究成果に基づく展開が認められるからである。研究・教育機関である西南学院が近年の研究動向に無関心であるわけにはいかず、『西南学院百年史』は現在の研究状況を反映した新しい構想のもとに執筆されなければならない。

そこで、まず30年前と近年の日本キリスト教史研究における動向を概観する。その上で、キリスト教史研究における問題意識・研究対象・方法論・叙述内容などの変化について考察する。

1. 1980年代のキリスト教史研究

— 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』をめぐって —

1980年代の日本キリスト教史の研究状況を的確に表現し、その後の研究活動を指導した業績がある。土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』²（以下、『日本プロテスタント史』と略記する）である。ところで、長く日本キリスト教史研究を指導した土肥の研究を、『日本プロテスタント史』だけで全容把握することは到底できない。そこで、まず各時期における土肥の研究成果を概観する。その上で、土肥の日本キリスト教史研究の脈略の中に『日本プロテスタント史』を位置づけ、1980年代の日本キリスト教史研究における意味を考察する。

(1) 土肥昭夫の日本キリスト教史研究概観

土肥昭夫（1927～2008）はアメリカ留学中に日本への学問的関心を触発されて、『内村鑑三』³を著した。この著作は土肥が最初にまとめた日本人キリスト教思想家に

1 西南学院学院史企画委員会編『西南学院七十年史 上・下巻』1986

2 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』新教出版社、1980

関する研究成果である。しかし、後に彼が取り組む一連の日本キリスト教史研究との関連からすると、その成果としてまず位置づけられるべき著作は『日本プロテスタント教会の成立と展開』⁴（以下、『成立と展開』と略記する）である。

土肥は1960年代以降日本キリスト教史研究に関わり続けたが、彼の問題意識や研究対象、さらに基本的な方法論はすでに『成立と展開』で示している。楕円形に2つの中心があるように、土肥の日本キリスト教史研究には一貫して中核となる2つの問題意識があった。その一方にあるのが、キリスト教を現実担当してきたキリスト教会である。他方、『成立と展開』が取り上げている「戦争責任の告白」「靖国神社法案阻止の運動」などの背後には、日本社会の動向とその中で行動するキリスト教への関心があり、これがもう一つの問題意識となっている。これらの問題意識から研究活動に着手する時、彼は教会に対する問題意識から教派を研究対象とし、この研究にはキリスト教神学を方法として用いる。もう一つの問題意識である教会の社会的活動からは、教派を時代の中に置き社会科学的方法を駆使して検討している。単純に捉えるならば、『成立と展開』に認められる問題意識から日本プロテスタント史研究を集大成し、全体像を提示したのが『日本プロテスタント史』である。確かに、『成立と展開』の研究方法だけで『日本プロテスタント史』を執筆することはできない。問題意識・研究対象・方法論のいずれをとっても、『日本プロテスタント史』はそれらを深化させ拡大している。それにもかかわらず、『日本プロテスタント史』は『成立と展開』の延長上にあるので、全く新しい研究内容とは言えない。したがって、『成立と展開』と『日本プロテスタント史』は土肥の日本キリスト教史研究における初期に属する。

『日本プロテスタント史』は、土肥昭夫が日本キリスト教史研究で到達した一つの頂点である。したがって著作時期は初期に属するが、これに代わる日本プロテスタント史の全貌を論じる彼の著作はない。しかし、『日本プロテスタント史』を踏まえることによって土肥には新たな問題意識が生じ、この意識に基づく研究活動が彼の日本キリスト教史研究に中期をもたらした。中期の著作として、『京のある教会の歩み—京南・京北教会史—』⁵（以下、『京北教会史』と略記する）と『日本プロテスタント・キリスト教史論』⁶（以下、『プロテスタント史論』と略記する）がある。なお、『京北教会史』の研究方法はほぼ『プロテスタント史論』で補えることができる。そ

3 土肥昭夫『内村鑑三』日本基督教団出版局、1962

土肥はその後も内村への関心を持ち続け、日本キリスト教史研究に位置づけた論考を発表している。

4 土肥昭夫『日本プロテスタント教会の成立と展開』日本基督教団出版局、1975

5 土肥昭夫『京のある教会の歩み—京南・京北教会史—』京北教会、1984

6 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史論』教文館、1987

ここで、『プロテスタント史論』によって中期の研究活動を概観したい。さて、初期の問題意識に2つの中心があったように、中期の研究においても2つの中核がある。民衆と天皇制である。ただし、中期に初めて民衆が自覚的に意識されたのに対して、天皇制は初期においても認められる。けれども、民衆を天皇制と対峙する概念として用いることによって、権力構造としての天皇制がさらに鮮明にされている。

長年の日本キリスト教史研究を経て、後期の土肥に共通して認められる意識がある。現在と未来のキリスト教に向けて、日本キリスト教史研究から提言を引き出すことである。このような問題意識から、『歴史の証言—日本プロテスタント・キリスト教史より—』⁷（以下、『歴史の証言』と略記する）と『思想の杜—日本プロテスタント・キリスト教史より—』⁸（以下、『思想の杜』と略記する）は編纂された。ただし、『歴史の証言』は日本キリスト教史研究を踏まえた「提言の志向」という傾向を強く持つ。それに対して、『思想の杜』は日本キリスト教史研究で著者の心を捉えた人物や出来事をまとめた「歴史の証人」という性格がある。

(2) 『日本プロテスタント史』の位置づけと意味

土肥昭夫は日本キリスト教史研究者として、初期から後期に至るまで着実な成長を遂げた。したがって、初期・中期・後期と区分される活動は土肥が研究者として辿った足跡を刻んでいる。それにもかかわらず、初期に一つの頂点に達した業績『日本プロテスタント史』は、現在も彼の代表的著作として高く評価されている。

そこで、1980年代の日本キリスト教史研究における『日本プロテスタント史』の意味を簡潔にまとめておこう⁹。第1に日本プロテスタント史先行研究の徹底した検証がある。同様に欧米におけるキリスト教史研究の状況も確かに踏まえて、それを日本キリスト教史研究に適用した。教派（denomination）への注目はその一例である。第2に資料の収集・分析・評価に対する地道で確かな取り組みがある。このような資料批判に対する誠実な態度は彼の研究に確かな基盤を与えた。その上で、第3に集めた資料の考察におけるキリスト教神学と社会科学を中心とした歴史的な研究方法の採用である。このように複数の方法を駆使することによって、歴史を生きたキリスト教の真実により即した考察が可能になった。方法論と重なりながら、第4の特色として

7 土肥昭夫『歴史の証言—日本プロテスタント・キリスト教史より—』教文館、2004

8 土肥昭夫『思想の杜—日本プロテスタント・キリスト教史より—』新教出版社、2006

9 参照、塩野和夫「現代歴史神学の意義—土肥昭夫の場合—」（『日本組合基督教会史研究序説』88-92頁）。

研究者としての実践的性格がある。土肥は単なる学究の人ではなく、社会に生じている現実的な課題を担いながら研究活動を続けた。この実践的性格が彼のキリスト教史研究に刺激を与えた。こうして、『日本プロテスタント史』は1980年代の日本キリスト教史研究に新しい地平を開いた。

ところで、今も土肥の『日本プロテスタント史』が高く評価されている事実がある。これは何を語っているのか。それはこの著作が日本キリスト教史研究の過去に忘れられたのではなく、現在もこの分野における基層的研究成果として認められている現実を語っているのである。

2. 現代のキリスト教史研究

— 竹中正夫『美と真実—近代日本の美術とキリスト教—』をめぐって—

近年の日本キリスト教史研究に新しいうねりが出現している。キリスト教の文化的表現である。この流れを受けて竹中正夫『美と真実—近代日本の美術とキリスト教—』¹⁰（以下、『美と真実』と略記する）は著された。近代日本におけるキリスト教美術を総合した『美と真実』は、日本キリスト教史研究に新しい可能性を提示している。その意味でこれまでの研究史の時期を画し、これからの方向性を示している。

(1) 竹中正夫の日本キリスト教史研究概説

アメリカ・コネティカット州にあるイエール大学で学位を取得した竹中正夫（1925-2006）は、指導教授 H. リチャード・ニーバーから日本におけるキリスト教研究の責任を助言される。これを一つのきっかけとして1950年代から着手した竹中の日本キリスト教史研究には、明らかな特色がある。地域社会とそこで生活する人々に着目し、宗教社会学的方法を用いて分析するのである。初期の研究を集大成した業績が、竹中正夫『倉敷の文化とキリスト教』¹¹（以下、『倉敷の文化』と略記する）である。

『倉敷の文化』（1979、11）に4か月先だって出版した『天籠の旅人—画家 宮芳平の生涯と作品—』¹²（以下、『天籠の旅人』と略記する）は、竹中中期の研究対象と内容をよく語っている。絵画を中心とした芸術作品にキリスト教と出会った日本人の魂と生の軌跡を読み取ろうと試み、それを日本キリスト教史に位置づけるのである。このようにして、竹中正夫『良寛とキリスト—大宮季貞の生涯をたどって—』¹³、

10 竹中正夫『美と真実—近代日本の美術とキリスト教—』新教出版社、2006

11 竹中正夫『倉敷の文化とキリスト教』日本基督教団出版局、1979

12 竹中正夫『天籠の旅人—画家 宮芳平の生涯と作品—』YMCA 出版、1979

竹中正夫『和服のキリスト者—木月道人遊行記—』¹⁴などが著された。なお、竹中正夫『ゆくてはるかに—神戸女子神学校物語—』¹⁵は、周辺に生きた人々を掘り起こして歴史の中に生かしていく彼の温かいまなざしが認められる。

竹中による日本キリスト教史研究の集大成が『美と真実』である。確かにこの著作は近代日本におけるキリスト教美術研究書という基本的性格を持つ。しかし、51名の芸術家の作品を彼らの生き方やキリスト教との関わりから分析し、あるいは「第8章 戦争を経験して」に典型的に見られるように近代日本史の動向を背景として読み解く方法は彼のキリスト教史研究で駆使されたものである。さらに、芸術家をハリストス教会（山下りんなど2名）、カトリック教会（佐々木松次郎など8名）、プロテスタント教会（大熊氏廣など28名）、無教会・単立教会（石河光哉など5名）、キリスト者でない人々（高村光太郎など8名）に分類し、大まかではあるが彼らを日本キリスト教史に位置づけている。したがって、竹中の日本キリスト教史研究後期の研究成果として『美と真実』を評価することができる。それだけでなく、日本キリスト教史の脈略から読むと、この著作から新しい地平が開けてくるのである。

(2) 『美と真実』の位置づけと意味

竹中正夫の日本キリスト教史研究における『美と真実』の位置づけは、土肥昭夫『日本プロテスタント史』とは対照的である。土肥は研究初期に彼の代表作を完成し、そこを起点に研究活動を続けた。それに対して竹中は初期・中期に蓄積した多くの業績を踏まえて、晩年に彼の代表作を書きあげた。竹中は『美と真実』に研究活動の真髄を注ぎ、それゆえにこの著作は彼の日本キリスト教史研究の頂点をなしている。

ところで、竹中が『美と真実』で研究対象にした美術とは人間にとって何なのか。彼は「はじめに」¹⁶で美術における感性と霊性について論じ、霊性において人間は「宗教的な世界に対応」しているとする。しかも、竹中が取り上げた美術家はすべて近代日本でキリスト教と出会い、刺激を受けて芸術活動に没頭した。したがって、第3章のタイトルである「生命の芸術」に見られるように、彼らの作品にはキリスト教に触発された日本人の魂が深く刻み込まれている。

そこで、近代日本を生きた人々の魂を刻んだ芸術作品の日本キリスト教史における意味を問い直さなければならない。30年前、これらの作品はキリスト教美術において

13 竹中正夫『良寛とキリスト—大宮季貞の生涯をたどって—』考古堂書店、1996

14 竹中正夫『和服のキリスト者—木月道人遊行記—』日本基督教団出版局、2001

15 竹中正夫『ゆくてはるかに—神戸女子神学校物語—』教文館、2000

16 「はじめに」（『美と真実—近代日本の美術とキリスト教—』9-14頁）

価値を認められても、日本キリスト教史とは関係を持たなかった。しかし、30年間に研究環境は激変した。歴史研究は歴史を生きた人間を積極的に取り上げ、彼らの魂の表現を歴史に位置づける様になった。従来の歴史研究はもちろん今日でも意味を持ち続けているが、それは歴史の骨格を形成する。歴史の内容には文化的活動を組み込むことによって、人間の息吹と魂の鼓動が聞き取れる叙述としている。

このような歴史研究の文脈において、竹中『美と真実』は日本キリスト教史研究に新たな可能性を与えている。

3. キリスト教史研究の現在

30年余り前、「世界宗教史叢書」全13巻を刊行した山川出版社は、装いも新たに近年「宗教の世界史」全13巻を出版している。これらの全集はいずれも日本キリスト教史を世界と日本の宗教史に位置づけて掲載し、それらは出版時の学問的水準と傾向を示している。そこでまずそれぞれに置かれた日本のキリスト教史を比較し、その上で近年におけるキリスト教史研究とその叙述の特色を中心に考察する。

(1) 目次に見る枠組みの比較

「世界宗教史叢書」は第12巻になる『日本宗教史Ⅱ』¹⁷の「第3部 近世の社会と宗教」と「第4部 近代化の社会と宗教」に日本キリスト教史を載せている。執筆者と目次は以下の通りである。

第3部 第2章 体制宗教と地下信仰

6 キリスト教の展開とカクレキリシタン 大濱徹也

(1) 日本布教への模索

ザビエルの旅 トルレスの働き カブラルとオルガンティノ

巡察使ヴァリニアーノの来日

(2) 日本人信徒の動向

ヴァリニアーノの改革 教線の展開 ポロシネ（隣人）としての働き
デウスをめぐる確執

(3) 禁教下のキリシタン

殉教の血潮 「隠れ」住むもの キリシタン農民の世界
「はなれ」住むもの

17 『日本宗教史Ⅱ』山川出版社、1977

第4部 第2章 キリスト教と近代社会 大濱徹也

1 カトリック教会の再布教

昭和4年の新旧教勢比較 日本再布教への途 復活キリシタンと旅
凱旋信徒の足跡 展開する教線と教階制の実施 修道会の諸活動

2 ハリストス正教会の日本伝教

ニコライと北海道開教 各地における教会の形成 日露戦争と正教会
ロシア革命の影響

3 プロテスタンティズムの伝来と発展 森岡清美

宣教師の渡来と信者の出現 集団レベルのキリスト教受容
キリスト教の革命的性格 キリスト教入信の契機 入信の主体的条件
文明開化の一契機 リバイバルが果たした役割
日本プロテスタントの社会的性格 プロテスタント諸教派の現状

「宗教の世界史」で第9巻になる『キリスト教の歴史2』¹⁸（以下、『キリスト教史2』と略記する）は、「第5章 アジアとアフリカのキリスト教」の「3 日本とアジア諸国のキリスト教」で日本キリスト教史を載せている。目次から日本関連の叙述だけを抽出すると、以下の通りである。執筆者は塩野和夫である。

- イエズ会の日本宣教
- キリシタンの信仰生活と南蛮文化
- 禁教政策と潜伏キリシタン
- キリシタンの復活とカクレキリシタン
- キリスト教各派の宣教活動
- キリスト教の社会活動
- 植民地化、戦時体制下のキリスト教
- 戦後民主主義社会におけるキリスト教
- 転換期に立つキリスト教
- コラム 「天皇制確立期とキリスト教」

2つのキリスト教史を目次で見る限り、その枠組みに大きな変化はない。いずれも、折々の政治状況とそれに対応するキリスト教の組織と活動内容が枠組みを作っている。

18 『キリスト教の世界2』山川出版社、2009

したがって日本キリスト教史の枠組みは社会的出来事の中にキリスト教を把え、適切な資料批判を経た後にキリスト教神学と社会科学的方法による分析を加え叙述している。

(2) 近年のキリスト教史叙述の特色

枠組みに認められなかった変化とは対照的に、『キリスト教史2』に掲載された図像は従来にはなかった新しい叙述傾向を示している。

5つの図像は工芸品(図1 葡萄蒔絵螺旋錠聖餅箱)、絵画(図2 お掛け絵「受胎告知」・図4「基地のキリスト」)、建築物(図3 石の会堂・図5 カトリック町田教会)に分類できる。これらはいずれもキリスト教の広い意味での文化的表現であり、制作過程において歴史を生きた人々の祈りが込められている。要するに、近代の日本キリスト教史は歴史の枠組みの中に人間の息吹を吹き込もうとし、その叙述方法として文化的表現を用いるのである。



図1 葡萄蒔絵螺旋錠聖餅箱
聖餅箱は日本の優れた工芸品であり、イエズス会が日本文化への適応主義を採用した事実を示している。
提供：東慶寺



図2 お掛け絵「受胎告知」

天使ガブリエルがマリアに懐妊を知らせる場面だが、マリアはすでにイエスを抱いており、背後に男神デウスが描かれている。

提供：黒田賀久蔵

長崎県平戸市生月町博物館・島の館

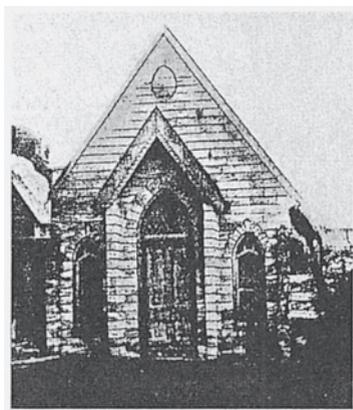


図3 石の会堂(横浜居留地167番地)

欧米風の小建築物で「聖なる犬小屋」と呼ばれ、1872年に日本最初のプロテスタント教会が設立された場所となる。

提供：佐波亘『植村正久と其の時代』(第1巻)、
教文館、昭和12年、図7



図4 「基地のキリスト」(田中忠雄画)
米軍基地の町立川をローマ軍に占領されたパレスチナになぞらえ、そこで宣教したイエスを想起しつつ描いている。
提供：東京国立近代美術館
©田中文雄



図5 カトリック町田教会
日本文化の伝統である和の雰囲気をかもしだす会堂は、カトリックが日本の土壌に深く根ざしている事実を示す。キリスト教が日本文化にインカルチャーレーション(文化適応)している事例である。
提供：カトリック町田教会

おわりに

キリスト教を社会との関わりから捉えて資料を丁寧に分析したうえで、キリスト教神学と社会学的方法によって考察する方法は、土肥昭夫『日本プロテスタント史』に顕著であった。このような方法は今日も日本キリスト教史の枠組みを作っている。その上で、竹中正夫『美と真実』が示したように、キリスト教が触発した魂の発露を歴史の中に組み入れる。このようにして、日本キリスト教史は構造においても内容においても歴史に深く即した叙述となる。『西南学院百年史』編纂事業が現代のキリスト教史研究から多くを学び、優れた構造と内容を持つ百年史となることが期待されている。